

# 保育園の自己評価

社会福祉法人 鶴見乳幼児福祉センター

2019年度(H31=R1)

2020年度

2021年度

## 保育理念

＜子どもの人権・人格の尊重・自立への援助＞

\* 子ども時代を子どもらしく生きる

温かく見守り、子どもの最善の利益を考慮する。

現在を最もよく生き将来望ましい未来を作り出せる力を養えるように適切な援助をして日々の保育活動を行う。

\* 子ども達一人一人を大切に保育

一人一人が快適に過ごせる環境づくりと共に、保育者を含めた周りの環境に自ら関わり、

その中でいろいろな経験をしながら遊びを展開していける保育活動を行う。

また、子どもが愛されている・自分は大切な存在だと感じられる保育活動も行う。

## 基本方針

\* 愛と希望に満ちた明るい保育を目指し、子ども達の人間形成の基礎作りをする。

\* 地域社会や保護者の意見を大切に、相互の連携を密にして信頼関係に基づく保育運営に努める。

\* 地域に開かれた施設として、保育園で持っている乳幼児保育に必要な事柄の提供・開放を行う。

## 保育目標

『いっぱい遊ぼう 笑顔の毎日～Smil and Heart～』

遊ぶの大好き 食べるの大好き 元気印

自分が好き みんなも好き ハート印

子ども達の声が響きわたり、笑顔があふれている保育園。

『子どもが主役』の保育園を目指し、

子ども一人一人を大切に。

### 評価記入方法

- |             |         |
|-------------|---------|
| a 良くできている   | c やや不十分 |
| b だいたいできている | d 改善を要す |

\* 28年度は第三者評価受診

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策	
			a	b	c	d		
保育理念・目標について	子どもの人権・人格を尊重し子どもの意思・自立への援助が出来ている。	2019		11				
		2020	8	13				
		2022						
	子ども達一人一人を大切に保育している。	2019	11	7				<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で検討はやや難ありだが、共通理解できるように努力している。</li> <li>・伝え方、怒り方に悩むときあり。</li> </ul>
		2020	12	9				
		2022						
	保育理念・目標は全員で検討し、かつ共通理解を図っている。	2019	6	11				<ul style="list-style-type: none"> <li>・その都度気付いた時に声を掛けるようにしている。</li> <li>・非常勤職員は検討する機会が少ないと思う。</li> <li>・皆で話し合いを持っている。</li> <li>・自己評価や第三者評価受診などで共通理解を図った。</li> </ul>
		2020	7	13	1			
		2022						
	理念・目標は子どもを尊重したものになっている。	2019	12	6				<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人について把握している。</li> </ul>
		2020	17	6				
		2022						
	温かく見守り、子どもが自分の思いなどを保育者に伝える大切さを職員が共通理解している。	2019	6	12				<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と心を通わせ保育者も子ども達も笑顔になればよい。</li> <li>・子の思いを聞き入れ、自分の言葉で伝えられるよう、いやと言える環境を大切にしている。</li> <li>・多くの職員が共通理解している。</li> </ul>
		2020	8	15				
		2022						
	現在を最も良く生き、将来望ましい未来を作り出せる力を養えるように適切な援助をしている。	2019	6	11				<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感を持てる保育を行いたい。</li> <li>・共通理解難しく、伝えきれていない。</li> <li>・先を見通した保育を意識している。</li> </ul>
		2020	8	13	1			
		2022						
保育について 発達援助	温度、湿度、採光、音が常に適切に保たれている。	2019	11	6			<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の周りの環境も良く気持ちよく過ごせている。</li> <li>・日が当たりやすい。</li> <li>・室内の温度だけでなく、子どもの個々の着脱も注意し気を付けている。</li> <li>・各クラスに計測器を置いて意識している。</li> <li>・職員の声が大きくなりやすい。</li> </ul>	
		2020	13	8	1			
		2022						
	指導計画は子どもが興味、関心をもって好きな遊びを十分楽しめるようになっている。	2019	7	8				
		2020	9	11				
		2022						
	子どもが健康に生活する場になっている。	2019	12	6				<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びを積極的に行っている。</li> <li>・感染症が広がらないよう配慮している。</li> <li>・天気の良い日は良く散歩に行っている。</li> <li>・清潔に保たれる所はあるが、整理整頓に不安を感じる。</li> <li>・清潔、整理整頓を心掛けている。</li> </ul>
		2020	16	7				
		2022						
	指導計画は定期的に評価、見直しを会議等で行い共有している。	2019	5	8	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の報告を受けている。</li> </ul>
		2020	6	12	1			
		2022						
	異年齢交流の計画を作成し実施している。	2019	5	7	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・他クラスとリズムや散歩を楽しんでいる。</li> <li>・大まかな計画はあるが、細かい計画は立てられていない。検討する。</li> <li>・幼児クラスはあるが乳児クラスはない。実施はしている。</li> <li>・異年齢で散歩に行くなど取り入れている。</li> </ul>
		2020	6	11	3			
		2022						
	子どもが好きな遊びを十分楽しめるよう柔軟性のある計画になっている。	2019	7	8	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭保育より多様で良いと思う。</li> <li>・季節に応じて適切な遊びが計画されている。</li> </ul>
		2020	9	11	1			
		2022						

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策
			a	b	c	d	
発達援助	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者との連携、情報共有が行われている。	2019	8	10			・保護者との言葉のコミュニケーションはとれている。
		2020	9	14			・基本生活の指導・支援。 ・連絡ノート、声掛け、面談等
		2022					
	子どもが愛されている、自分は大切な存在だと感じられる保育活動を行っている。	2019	8	10			・子どもの発達に応じて色々な保育活動を工夫して行っている。 ・子どもとのスキンシップを大切にしている。 ・その日の機嫌に気づき支える。 ・子どもの声を引き出せるよう耳を傾けるようにする。 ・気になる言葉、言い方を聞くこともある。 ・1日のどこかで子ども一人一人とスキンシップを取る時間を設けている。 ・子ども達の笑い声が響いている。
		2020	11	12			
		2022					
	子どもが遊具や用具、素材など自分で取り出して遊べるようになっている。	2019	8	11			・研修を通して部屋のおもちゃ棚の中を替えた。 ・戸惑うことなく自分の好きな遊具で遊んでいる。 ・子ども達にとっていいのか悩むときあり。
		2020	10	13	1		
		2022					
	経過記録を活用し、進級児の申し送りを担任間でやっている。	2019	6	9	1		・経過記録はあまり活用されていないが、日誌や月の指導計画などで振り返り引継いでいる。 ・申し送りは経過記録を活用しないこともある。 ・前年度の引継ぎがされていないと言われてしまった。 ・新年度前に担当が集まって申し送りをしている。 ・経過記録を活用しきれていない。
		2020	8	12	1		
		2022					
子どもが自己選択、自己決定、自己活動できる環境を確保している。	2019	4	13	1		・年齢や発達に応じて作っている。 ・意味のとらえ方が違う、わからない職員もいる。	
	2020	7	15	2			
	2022						
保育について	子どもの年齢発達にふさわしい環境構成にしている。	2019	9	9			・幼児が乳児のお手伝いをしている。 ・子どもの動き、成長に合わせた配置換えをしている。 ・助言などを受けたり、相談し合っている。
		2020	11	11	1		
		2022					
	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫し、清潔、安全が保たれている。	2019	8	10			・清潔、安全に気配りしている。 ・他の職員の意見をもらいながら努力している。 ・担任が行うことが難しいこともある。 ・廊下に物を置きがち。
		2020	10	12	1		
		2022					
	子どもが自分から思わず関わりたくなるような魅力ある環境構成をしている。	2019	5	14			・玩具棚の充実。取りやすさ等日々話し合い最善を尽くしている。
		2020	6	16	1		
		2022					
	必要に応じてプライバシーが守られる空間を確保できるよう工夫している。	2019	7	9	2		・一人の空間が作れると良い。 ・木浴槽にカーテンがついて良くなった。 ・場所だけでなく、保育者の空気(位置)も大事。 ・手作りの囲い、空いているスペースの活用をしている。 ・職員間でバラつきがある。 ・絵本コーナー、おひさまサロンなど ・ついたてを利用し、ひとりになれる空間を作っている。
		2020	9	11	3		
		2022					
季節の移り変わりが感じられるような環境を構成している。	2019	11	6			・クラスの壁に毎月季節の物を飾っている。 ・散歩、行事、部屋の装飾などの工夫をしている。	
	2020	13	9				
	2022					・散歩に出かけ四季に触れている	
子どもが人とのやり取りを育む環境を構成している。	2019	5	12			・おまごとコーナー等 ・幼児が保育者の手伝いをよくしている。 ・接近し過ぎず、自然体で。何かある時は言葉かけを。	
	2020	7	14	1			
	2022						
長時間における保育の環境を整備し、保育の内容や方法を職員で共有している。	2019	6	11			・朝夕の様子が繋がるように日誌を改良した。 ・朝夕担当の職員もできるだけクラスに固定した。 ・話し合いができる時間の確保、工夫が必要。 ・お互いに伝えあう、コミュニケーションが大切。 ・努力している	
	2020	8	14			・朝、日中、夕で繋げるようにこまめに話すようにしている。 ・朝、保育内容を確認している。 ・夕寝など個々に対応している。	
	2022						

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策
			a	b	c	d	
保育について 養護と教育	小学校への移行が円滑に行われるよう、交流したり、要録の送付等を行っている。	2019	7	6	1	1	・行って居るが、解りにくい。
		2020	8	9	1	1	
		2022					
	職員が養護と教育を理解し実践している。	2019	6	9	1		・学ぶ時間を確保し理解を深めた。 ・カリ会議で確認した。
		2020	7	11	2		
		2022					
	統合保育の意味や有益性を理解し共有している。	2019	4	12	1		・理解して受け入れている。実際良い影響を受けている。 ・保護者と共有出来ている。
		2020	5	15	1		
		2022					
	配慮を要する子どもや障害のある子どもの対応やケアについて職員が情報を共有している。	2019	7	10			・研修が活かされていない場面もある。 ・保育会議、指導計画などで共有している。 ・会議やミーティング等で伝えている。 ・足りていない。 ・ケース会議を毎月行っている。
		2020	8	14			
		2022					
	保護者と必要に応じて情報の共有をしている。	2019	11	8			・良くしていると感じる。 ・しているつもりである。
		2020	12	11			
		2022					
健康・安全について	内科健診、歯科検診、身体測定等を定期的に行い、配慮が必要な結果であれば、医師の指示に従っている。	2019	15	4			・園医との連携を行っている。 ・行っている。組み込まれている。
		2020	20	4			
		2022					
	全職員に対してSIDSに関する知識が周知され取組が適切に行われている。	2019	13	6			・チェック表がある。 ・触れての確認は毎回ではないと思う。 ・会議等で研修報告
		2020	16	6			
		2022					
	配慮を要する子どもの食事の提供方法や誤飲防止等について、マニュアル等を作成し、職員間で共有している。また、医師の指示のもとで除去食を提供している。	2019	15	3			・声掛けをしている姿をよく見る。 ・個々の意識の差がある。 ・職員間で連絡を密にしている。 ・努力している。 ・アレルギー面談を定期的に行っている。 ・担任、調理とダブルチェックしている。
		2020	17	5			
		2022					
	食の大切さを知り、食事を楽しめるよう工夫したり働きかけている。	2019	15	2			・季節の野菜を栽培し食べる楽しさを提供している。 ・常に意見を出し合っている。
		2020	18	4			
		2022					
	避難訓練等安全に関する訓練が定期的に行われ、適切な対応が職員に身につけている。	2019	13	7			・朝夕も定期的に行われるので、朝夕職員も適切な対応ができるようになった。 ・実際に起こってもスムーズに行動できると思う。 ・研修にも行っている。 ・色々な場面に対しての訓練を取り入れている。 ・年間計画を立てて行っている。 ・毎月参加している。 ・各クラスにマニュアルが置いてありわかりやすい。
		2020	14	11			
		2022					
保護者支援	保護者に寄り添い保護者が自己決定を出来るように、子育ての相談に応じたり、個人面談の機会を設けるなど、積極的に保護者に対する支援を行っている。	2019	10	7	1		・その都度必要な時はすぐに話せるようにしている。
		2020	13	9	1		
		2022					
	保護者と日常的なコミュニケーションを図り、信頼関係を築く大切さを職員間で共有している。	2019	9	10			・良く保護者と話したり、また、他職員が話しているところをよく見る。
		2020	10	14			
		2022					
児童虐待を発見した場合の対応について、マニュアルがあり職員間で確認している。	2019	10	7	1		・マニュアルがいつでも見られる環境が必要。 ・職員全員知っているのか？ ・マニュアルの所在を改めて確認したが、内容の更新の確認が課題。 ・マニュアルを確認し合っていく。	
	2020	11	9	2			
	2022						

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策
			a	b	c	d	
保護者支援	家庭支援の必要な保護者を援助し、虐待を予防する体制になっている。	2019	8	8			<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児の負担の大変さを共有できるよう話かけたりしている。</li> <li>・区のケースワーカーとこまめにやり取り、カンファレンスを行っている。</li> </ul>
		2020	9	11	1		
		2022					
地域支援	地域のニーズ(子育て支援・高齢者の福祉等)に応じて、施設の専門性を生かしたサービスを提供している。	2019	8	10	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時保育、育児支援事業を行っている。</li> <li>・まだ子育て支援の域だけなので、これから。</li> <li>・できる範囲でしていると思う。</li> <li>・一時保育、リズム出前保育をおこなっている。</li> <li>・高齢者は？</li> <li>・できる限り行っている。</li> <li>・常設園になり保育園の資源を活かして努めている。</li> </ul>
		2020	10	13	1		
		2022					
	職員が子育て支援の重要性を認識し、保護者が安心して気持ちよく利用できるよう共通認識している。	2019	8	9	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児支援を担当する委員会があり、話し合いも行い会議で共有している。</li> <li>・笑顔で受け入れ、来てでも安心できる環境を作っている。</li> </ul>
		2020	10	12	1		
		2022					
	実習生、職業体験、ボランティア等の受け入れマニュアルがあり、保育所の基本姿勢や方針を職員に周知している。	2019	7	10			<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルの所在の確認。</li> <li>・周知の度合いは多くない。</li> </ul>
		2020	9	13			
		2022					
	地域と協力して行事を行う等、地域の団体や機関と連携している。	2019	8	9	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・めざしている。</li> <li>・お餅つき</li> <li>・地域の子育て支援イベントに参加している。</li> <li>・双方でもちつきについて話し合われたことがある。</li> <li>・難しい面も多いが努力している。</li> <li>・地区イベントでは地域の支援団体と連携している。</li> </ul>
		2020	11	11	2		
		2022					
ホームページ、パンフレット等の資料を、公共の場におくなど情報の公開をしている。	2019	14	6			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区イベントでも資料を持って行った。</li> <li>・もっと提供できると良い。</li> <li>・近隣の支援施設には直接届けている。</li> </ul>	
	2020	17	8				
	2022						
職員の資質向上	保育士は自らの保育実践を振り返り評価し専門性の向上や改善に努めている。	2019	11	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価を行っている。</li> <li>・日誌、日案の振り返りをしている。</li> <li>・日誌やカリの自己評価を行っている。</li> </ul>
		2020	12	9	1		
		2022					
	年間を通して自己評価する機会を設けている。	2019	13	6			<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからだと思う。</li> <li>・人事考課を行っている。</li> </ul>
		2020	14	8	1		
		2022					
	自己評価を活かしてキャリアアップを図るよう育成している。	2019	6	8	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだこれからだと思う。</li> <li>・整理、計画していくべき。</li> <li>・人事考課を取り入れ、キャリアパスを図れるようにした。</li> </ul>
		2020	7	10	3	2	
		2022					
	研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させている。	2019	7	9	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修報告の内容をじっくり聞ける時間の確保が課題。</li> <li>・会議の中でいつも時間に追われてしまう。</li> <li>・園内研修も有効に。</li> <li>・活かしたい。環境でやりたいことがたくさんあるが足りない。</li> <li>・わらべうた研修</li> <li>・研修報告を会議で行い共有している。</li> </ul>
		2020	8	12	1	1	
		2022					
評価の結果を課題として明確にし、改善につなげている。	2019	5	10	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうありがたい。</li> <li>・これからさらに努力していく。</li> <li>・努力している。</li> </ul>	
	2020	6	13	2	2		
	2022						
各職員に期待される役割、目標、人材育成の方法が明確化され、計画的に行っている。	2019	5	10	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから積み重ねていきたい。</li> <li>・努力している。</li> <li>・キャリアパスが明確化しそれに伴う育成をしていく。</li> <li>・人事考課を行い、これから取り組んでいく。</li> <li>・研修に参加したり声を掛けたりしている。</li> <li>・人事考課の取り組み</li> </ul>	
	2020	6	13	2	2		
	2022						
非常勤職員に関しても資質向上に向け、研修の機会を設けている。	2019	5	9	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと研修があっても良いと思う。</li> <li>・努めているが不足。</li> <li>・研修会などに参加し勉強している。</li> <li>・職員のニーズに合っているか疑問に思う。</li> <li>・朝夕会議だけでなくもっと研修に行けると良い。</li> </ul>	
	2020	6	12	2	1		
	2022						

項目	内容	記入年	評価結果 %				意見・改善策
			a	b	c	d	
運営・管理・社会的責任	苦情を職員間で共有し、保育の改善に生かしている。	2019	12	6	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園説明会で第三者委員の説明も合わせて行っている。</li> </ul>
		2020	13	10	2		
		2022					
	苦情解決緒仕組みを保護者に説明している。	2019	8	10	1		
		2020	9	14	1		
		2022					
運営・管理・社会的責任	守秘義務の意義や目的を全職員に周知している。	2019	11	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理要綱や就業規則の紙面でも周知している。</li> <li>・連絡ノートや日誌類を保護者の目に触れないようにしている。</li> <li>・周知しているが、たまにこれは？と思うことがある。</li> </ul>
		2020	15	10			
		2022					
	保育園の専門性を高め、活性化を図るため自己研鑽に対する援助や助言をしている。	2019	8	11			<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えるのが難しい場面、人もおり、勉強が必要。</li> <li>・できるよう心掛けているが、不十分。</li> <li>・自分自身も不足。</li> <li>・助言を受け努力している。</li> <li>・組織図に添ってできるようにしている。</li> <li>・悩んだときは先輩に相談をしている。</li> </ul>
		2020	10	13	1		
		2022					
	地域にある保育園として社会的責任を果たし専門性の向上に努めている。	2019	10	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力と現実の差。全職員に周知できているか？</li> <li>・少しずつ全体の志が変化してきている。</li> <li>・社会的責任の学びを行った。</li> </ul>
		2020	13	11			
		2022					
	各種会議を適切且つ効率的に進めている。	2019	4	10	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間内でやりくりしながら頑張っている。</li> <li>・もっと効率的にするべきだと思う。</li> <li>・報告ばかりになりがち。</li> <li>・保育会議②での内容は改善するところがあるように案じる。</li> <li>・皆が意見できる雰囲気づくりをしたい。</li> <li>・伝え方、まとめ方に改善の必要はあるが、意識して改善しよう努力している。</li> <li>・報告だけでなく良い方向へ向かっている。</li> <li>・皆が参加できる時間に会議を変更</li> <li>・会議の持ち方を変更した。</li> <li>・たまに終了時間が過ぎてしまうことあり。</li> </ul>
		2020	5	12	7	1	
		2022					
	職務内容が明確で協働できる体制になっている。	2019	3	13	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルがもう少し必要などところもある。</li> <li>・皆が立場を理解しよく動いている。</li> <li>・クラス内でポジションローテーションしているが、臨機応変にできている。</li> <li>・係によっては難しいところもある。</li> <li>・前年度の反省を必ず引き継ぐ。</li> <li>・割り振りがうまくいかない、明確ではない部分あり。</li> </ul>
		2020	5	15	1	2	
		2022					
	職員を適材、適所に配置している	2019	3	12	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのつもりだが評価はどうか。</li> <li>・難しい部分あり。</li> <li>・人材不足</li> </ul>
		2020	5	14	3	3	
		2022					
	各種会計を適正かつ適切に処理している。	2019	8	9	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務の先生のすごさを感じる。</li> <li>・不明なところは会計士の指導を受け、適正かつ適切に処理するのが仕事であると努めている。</li> <li>・日々本当によくしてもらっている。</li> </ul>
		2020	11	11	1		
		2022					

## 総評

- ・自己評価や第三者評価に取り組んだ出いることにより、保育が共有できているか否か集計を通して理解できる。  
しかし、日々の保育、さらに保育の向上に繋ぐことに生かすためには、様々な整理改善が求められている。
- ・全職員が周知・きよつ売り買いの為に、見やすくしていきたい。  
新採用職員が「わからない」「知らない」と評価をつけているところもあり、説明不足ということがわかった。  
きちんと対応していく。
- ・平成28年3月より「子育てひろば私立常設園」を担うことになり、地域の中で保育園の資源を活かして支援を行っている。地域の他機関と連携を取り、社会的な役割を果たしていきたいが、高齢者支援は難しい。
- ・各種会議については気づきの都度話し合いを行い、良い方向を目指している。
- ・各項目をどのように回答すべきか解らないところが多い。経営主体側の評価を知りたい。」という意見もある。
- ・評価内容の取り組みに対して求めることが多い。

# 保育士の自己評価

社会福祉法人 鶴見乳幼児福祉センター

H27年10月作成→H30年4月改訂

鶴見乳幼児福祉センター保育園

市社協・保育福祉部会主催研修(H26年2月3日開催)

「保育所の自己評価」研修資料より抜粋



## \* 保育士のための自己評価 \*

### \* チェックシートの書き方 \*

- ① チェックシートに沿って自己評価をします。  
《評価の目安》 a … 十分わかる／十分出来ている  
b … おおむねわかる／おおむね出来ている  
c … あまりわからない／やや不十分  
d … ほとんどわからない／改善を要する
- ② 各項目の上段を1年目、中段を2年目、下段を3年目に使用します。
- ③ 特に具体的に取り組んだ項目や気付き等を右欄に記載します。

チェックシート  
\* 生活

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				未記入	具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d		
1	子ども一人ひとりの発達状況と子どものおかれている事情を理解し、保育を行っていますか。また、日々の健康状態を把握し保育していますか？	2018年	42%	58%				一言を聞いての保育者も担任職員士との連携も取ら、必ず子どもの状態を把握し、主体的なミーティング等で把握する。日々の保育と連携を取り、日々の発達状況を把握している。
		2019年	47%	44%				配慮が必要な子どもに対する対応や日々の様子把握に配慮するようになっている。発達時評子のチェックをしている。声を掛け合いながら、保育している。会議で発達や健康について共有、ミーティング、朝夕職員と連携し、変化を見逃さないように努めている。
		2020年	61%	39%				カリキュラム・引継ぎノート・保護者への声掛け・視診・毎日のミーティング等で担任と情報共有し保育に当たっている。
2	登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのはなく、子どもの状況に応じて抱いたり、優しく声を掛けたりしていますか。また、自分の気持ちもうまく表現できない子どもの心情を汲み取ろうとしていますか。	2018年	63%	37%	100%			着替えやトイレで職員が受け入れている。泣いている理由を聞いてあげたり、気持ちよくお話を聞かせている。
		2019年	68%	26%	3%		3%	声を掛けようとしている子どもの様子から読み取ろうとしている。優しく受け止めている。気持ちも表現できない子どもに寄り添い言葉にできるような声かけや環境を作っている。子どもの気持ちに寄り添いながら関わっている。言葉で気持ちを表現できるように努めている。
		2020年	72%	28%				落ち着くまで寄り添い、落ち着いてから声をかけようとしている。切り替えができるような声かけや環境を作っている。
3	保育室の換気や温度・湿度に配慮して保育していますか。	2018年	58%	42%				自然に換気している。温度・湿度計を複数設置している。窓を閉め換気をしている。
		2019年	62%	32%	6%			湿度計を設置し、湿度を把握している。湿度計を複数設置している。湿度計を複数設置している。湿度計の故障、湿度の低下を防ぐために加湿器を使用している。
		2020年	50%	39%			5%	窓を閉め、床暖房、加湿器、ぬれバスタオルを使って調整しているが湿度の上がらない日があり困ることがある。
4	乳児においては、継続的に同じ保育士との関わりが保てるよう配慮していますか。	2018年	47%	47%	5%			1日を週し担当職員が関わると決めている。乳児は担当職員を交代している。
		2019年	60%	35%	6%		9%	子どもの様子を見て対応している。担当職員が関わるときも同じような対応ができるようになっている。入園当初は同じ子どもの様子からわかるような関わりを取り入れた。職員は担当職員、1人1人関わりが保てるようになっている。
		2020年	56%	33%	6%		6%	職員の体制上難しい場合もあった。1日の保育を通して担当制にしている。
5	食事の前の手洗いを励行する等、清潔習慣が身に付くように援助していますか。	2018年	74%	26%				清潔について話をしたり、手を洗う手洗いの大切さを伝えたりはしている。
		2019年	85%	12%			3%	清潔について話をしたり、手を洗う手洗いの大切さを伝えたりはしている。清潔について話をしたり、手を洗う手洗いの大切さを伝えたりはしている。清潔について話をしたり、手を洗う手洗いの大切さを伝えたりはしている。
		2020年	89%	6%	6%			手洗いの清潔は特に意識した。どうして必要かも一緒に伝えている。
6	子どもが残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていませんか。	2018年	68%	32%				毎月食べる量を減らされるようになっている。苦手なものは1日ずつ食べようとして声掛けし無理強いはしていないようにしている。
		2019年	74%	18%	3%		6%	食べられないものは無理強いはしていない。量を増やして食べるように促している。食べられないものは無理強いはしていない。食べられないものは無理強いはしていない。
		2020年	72%	28%				食べられる量を聞き調整。慣れるまで1日サイズにしたり味がわかるようにしている。子に任せている。体調やメニューひとりひとりの食事量に応じて調整し、楽しく食べられる雰囲気を作るようにしている。
7	子どもが落ち着いて食事を楽しめるように工夫していますか。また、時には様々な場所で食べる等の工夫をしていますか。	2018年	32%	68%				食事やトイレでやわらかく食べたり、お弁当を持って遠征へ行ったり買物でかき氷で食事を楽しんでいる。職員も一緒に食べる目的の食事をしている。
		2019年	41%	47%	3%		9%	食事やトイレでやわらかく食べたり、お弁当を持って遠征へ行ったり買物でかき氷で食事を楽しんでいる。職員も一緒に食べる目的の食事をしている。
		2020年	39%	61%				グループ単位で園にならないよう時差で食べている。コロナ対策で対面しないので会話もしないで食べている。落ち着ける椅子の設定に工夫している。アレルギー児の席の確保等難しいものが工夫したい。テラスランチなどしていきたい。
8	季節感のある食材に触れる機会を設けたり、子どもが育てた野菜等を料理して食べることがありますか。	2018年	63%	37%				目でた野菜を収穫し、味わう機会を共有した。収穫体験。
		2019年	62%	26%	3%		9%	育てた野菜を見て楽しむ。水をやり育てる。収穫した野菜を調理して食べた。育てた野菜を調理して食べた。育てた野菜を調理して食べた。
		2020年	50%	45%	5%			ピーマン・オクラ・ミニトマト等沢山売ったのでたっぷり味わうことができた。園で育てた七草で七草がゆを味わった。子どもの育てた野菜を子どものリクエストの味付けで提供した。地域の方と栽培し食していただいた。
9	食事(離乳食・アレルギー・偏食)病気(健康状態)は、家庭と連携を取りながら、一人一人の子どもに状況に配慮して対応していますか。	2018年	80%	32%				アレルギー面談をして、アレルギー食を提供している。毎月の献立チェック、プレート使用
		2019年	74%	18%	3%		6%	アレルギー面談をして、アレルギー食を提供している。毎月の献立チェック、プレート使用
		2020年	72%	28%				アレルギー面談をして、除去食を調理士、保育士で確認し提供している。毎月の献立チェックを行っている。土曜日は全員が食べるメニューにしている。
10	調理をしている場面を子ども達が見たり、言葉を交わしたり出来るような工夫を行っていますか。また、子どもが配膳や片付け等に参加できるように配慮していますか。	2018年	47%	47%	5%			調理室へ調理室を子ども達が覗けるようにしてとる。保育室でランチなど調理室が遠く。食事の様子を見てくれる。ガラス越しに見たり、言葉も交わしている。
		2019年	38%	41%	12%		9%	調理室へ調理室を子ども達が覗けるようにしてとる。保育室でランチなど調理室が遠く。食事の様子を見てくれる。ガラス越しに見たり、言葉も交わしている。
		2020年	28%	50%	11%	11%		収穫した野菜を調理室に持って行き、味付けなど給食の先生と会話をした。目の前で野の皮むき、カレーを子どもとクッキングした。アレルギー児がいないよう片付けをしないようにしている。
11	おもしろをした時に、その都度優しく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮していますか。	2018年	58%	42%				次につながるような声掛けをしている。おもしろい所物の言葉や伝達の際に優しく対応している。言葉で優しく声をかけている。おもしろい所物の言葉や伝達の際に優しく対応している。
		2019年	82%	18%				次につながるような声掛けをしている。おもしろい所物の言葉や伝達の際に優しく対応している。言葉で優しく声をかけている。おもしろい所物の言葉や伝達の際に優しく対応している。
		2020年	78%	22%				安心できるような声掛け、保護者にも叱らないよう伝えた。おもしろい所物も大丈夫という様本を用意し優しく声をかけるように心がけた。個々を大切に配慮している。言葉に気を付けている。



# チェックシート

\* あそび

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	
1	年齢に合わせて、素材や用具を子ども達が自由に取り出せる場所に置き、遊具の正しい使い方を丁寧に伝えたり、見守ったりしていますか	2018年	37%	58%	5%		玩具の数や種類は時期によって変えるように心がける。使う量や片付け方も知らせたい。
		2019年	44%	47%	6%		玩具の使い方や場所などを1つ1つ丁寧に伝えている。手作り玩具や内容はもう少しできると良かった。
		2020年	33%	61%		6%	担任間で話し合いその都度レイアウトを変えた。身につけてきた積み重ねが大事。使い方は丁寧に教えているが室内の配置は考慮すべきところがある。遊具の正しい使い方は固く統一してほしい。クレヨンの使い方など全く教えていない。
2	自分のイメージを言葉等で表現したり、皆で一緒に表現する楽しさが味わえるようにしていますか。	2018年	50%	37%	5%		リズムやごっこ遊び。発表会等ひとりひとりが自由に話せる時間を作る。
		2019年	50%	38%	9%	3%	ごっこ遊びでは保育者の一声で遊びの幅が広がると感じしており、日々一緒に楽しむ。歌やわらべ遊びなどで一緒に遊ぶ楽しさを体験できるように心がけている。
		2020年	61%	33%		6%	うたやわらべうたあそびなどで一緒に遊ぶ楽しさを体験できるよう心掛けた。
3	五感を感じたり、自然の素材に触れて、楽しむ機会を多く取り入れていますか。	2018年	68%	26%	5%		散歩に行き草花に触れている。四季の移り変わり伝える。総持寺周囲の環境に恵まれている
		2019年	50%	38%	12%		花を使って色水遊びをしたり、自然探しをしている。散歩を通して四季の移り変わりを伝えたり、自然に触れたりしている。
		2020年	39%	50%	6%		散歩、園庭のどんぐりコーナーで遊びが広がった。芋ほり、水遊びをもっとしたい。
4	好きなことをしてくつろげる空間や子ども達がのびのびと身体を動かせるように時間場所・遊びを確保していますか。	2018年	47%	53%			環境設定はクラスで話し合い、必要な場合は変える。ホールで遊びのスペースを作ったり、子どもからアイデアを引き出して確保している。静と動を意識し保育を組み立てている。大きいクラスでもくつろげる環境を築きたい。
		2019年	53%	38%	6%	3%	部屋の角を利用して好きな場所で遊べるようにしている。室内外で遊びのスペースを作ったり、子どもたちからアイデアを引き出し確保。
		2020年	50%	50%			担任間での連携ができず難しかった。園庭遊びで他のクラスと連携して活動を行っている。自分だけでは難しく担任間での連携ができなかった。
5	玩具・遊具は、必要に応じて、消毒したり衛生面に配慮していますか。	2018年	16%	74%	10%		毎日行い、金曜に洗濯、ビュウックスで玩具消毒。日々追われ日が開いてしまった。
		2019年	47%	41%	12%		洗ったり、消毒液で拭いたり配慮している。定期的に行っている。
		2020年	67%	33%			使ったものは都度行った。洗濯日が週1ある。コロナ対策でいまませ以上の配慮努力。
6	異年齢の子どもとの交流が行われていますか。	2018年	53%	42%	5%		夏祭り異年齢グループで神輿づくり等準備。合同遠足。ペアで異年齢児での交流。朝の体操。リズム、わらべうたあそび交流。年長児がクラスにお手伝いをしに来て関わってくれる。
		2019年	53%	35%	9%	3%	進級に向け乳幼児クラス共交流を増やしていきたいと思っている。散歩に行ったり行事リズムなどで交流している。土曜保育で幼児クラスの遊びを乳児クラスも模倣している。0歳児クラスや廊下で遊ぶのもっとあってほしい。今年は少なかつたので後期取り組みたい。
		2020年	33%	50%	17%		クラスを分け少人数で工夫しながら関わった。工夫して行うようになった。今までよりできなかった。どうゆう形なら可能か考えていきたい。土曜は異年齢ほいくなので関わる姿を多く見る。夕方はない。
7	毎日の活動の中で数や量等につれる機会を作っていますか。	2018年	47%	37%	16%		わらべうたあそびや花はじき、お手玉などの玩具、収獲物の数など自然に興味を持ち覚えられ環境が作れている。1日の流れボードや時計、当番活動など。
		2019年	41%	44%	9%	3%	絵本やパネルシアターなどで数字の出ている話等取り入れている。
		2020年	50%	33%	17%		お手玉遊びの中で数える。収獲物をいくつとれたか話している。一緒に数を数えたりどっちが多い？と遊んでいる。わらべの数え歌、いろいろな場面で触れる。
8	つまづきや葛藤、けんかなどの経験が成長に欠かせないものにとらえ、適切に対応していますか。	2018年	74%	26%			大人が良い悪いを決めるのではなく、経験の中で気づいていけるよう意識して対応している。怪我の無いよう見守った。★双方の話を受け止め子どもたちと一緒に糸口を探している。
		2019年	59%	36%	6%		喧嘩してもよいと伝え、解決法も伝えている。★参照。担任に伝え対応している。
		2020年	72%	28%			気持ちを代弁し受け止めながら対応している。相手の気持ちに気づけるように言葉がけしている。互いの気持ちを聞き互いに納得するよう仲立ちしている。自分たちで解決できるよう伝えていく。
9	子どもが思ったことを友だちや保育者に伝え、相手の思っていることにも気づくように援助していますか。	2018年	60%	32%			みんな話して決めることが多い。集団の中で声の出さない子にも配慮している。★双方の思いや気持ちを聞きながら双方に伝えている。
		2019年	65%	32%	3%		お互いの気持ちを代弁しながら気づけるようにしている。難しい子には1:1でついで伝える支援をする。★参照
		2020年	67%	33%			隣り着ける場所でも互いの思いを聞き代弁しながら伝えた。自分で思いを伝えられない子には仲立ちとなり遊びたい子に思いを伝えるようにしている。相互で話し合いをしてから援助している。
10	子どもが保育者や友だちと一緒に過ごすことを楽しめるような配慮をしていますか。	2018年	74%	26%			好きなことを楽しめるようにしている。
		2019年	61%	35%	3%		危険だと思っても他の方から「良い」と言われればどうしたらよいかわからない。
		2020年	61%	39%			子どもたちの遊びの中に積極的に関り楽しんだ。声掛けをし、楽しめるようにしている。
11	子どもが危険な場所や遊びが分かり、安全に気をつけて行動できるように働きかけていますか。	2018年	68%	32%			前もって伝えている。危険なことをしていれば、その都度1対1や集団に向けて話そうにしている。
		2019年	68%	29%	3%		危険な場所や行為を前もって話す。見渡せる場所について危険を伝えられるようにしている。
		2020年	55%	33%	6%	6%	いい事悪い事はその都度伝え安全に遊べるよう関わっている。先がイメージできるような話している。なぜいけないのかわかりやすく伝えながら対応。どこまでがOKか担任との考えに差がある。

# チェックシート

## \*障がい児保育

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	障がい児保育について保育内容や方法に配慮し、定期的話し合い見直す機会を設けていますか。	2018年	26%	68%	5%			会議(クラス・ケース・保育等)で情報を共有し子どもへの対応について話し合い、アドバイスを提起している。(4人) 計画書をクラスの中で見直ししているが全体でもっと共有できるとよい。
		2019年	32%	44%	18%		6%	気になる子の対応を話し合い、全体会議できらに討議している。時間を作っていく。
		2020年	33%	61%			6%	クラス会やケース会で共有し担任と同じ対応で保育した。もう少し話せる時間があると良い。朝夕会議でも支援の確認ができるが良い。
2	不安や焦り等の悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心掛け、相談に乗ったり情報を提供していますか。	2018年	58%	37%	5%			育児相談、個別面談、送迎時の声掛け、連絡帳等活用。時間的に中々会えない保護者もいる。家庭環境に合わせて援助している。自分が未熟な為、声をかけていいか戸惑う。
		2019年	41%	38%	12%	3%	6%	個々に面談ができることを保護者に伝え行っている。お迎え時に挨拶を積極的にし話せることもあった。
		2020年	50%	50%				受け入れ時、面談の声掛け。連絡帳でやり取りしている。もう少しできると良かった。不安を拾い切れていない部分もある。気配り、声掛けをしている。また、担任間で情報共有している。
3	障がい児保育に関する研修を受けたり、必要に応じて専門機関などと連携が取れていますか。	2018年	53%	37%	10%			☆保育や役所等情報交換をし、連携をとっている。今年度は研修を受けていないが、受けた職員の情報を受けている。
		2019年	38%	35%	15%	6%	6%	保健所へつなげ専門機関につなげている。☆参照。ネット依存の研修を受けた。研修を受けたので生かせるようにしたい。
		2020年	39%	44%	17%			情報を知るようにしている。園として行っている。キャリアアップ研修など予定者はいたが全員は受けられていない。研修は受けていない。

# チェックシート

\* 職員

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果				未記入	具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d		
1	「保育の主役は子どもである」ことを意識し思いや考えを取り入れた保育をしていますか。	2018年	53%	47%				話せなくても、思いを汲み取り保育している。子どもに相談しながら保育をする。
		2019年	47%	41%	9%		3%	子どもは主役であることは意識している。子どもと関わることで思いをくみ取ろうとしている。
		2020年	72%	28%				担任間で話し合いをし、思いや考えを取り入れ保育を行っている。研修に行って更に意識し保育。良いところをほめたり個性を尊重して関わっている。
2	正しい言葉遣いや声の大きさを意識して子どもと話をしていますか。	2018年	42%	63%	5%			子どもの様子を見ながら話している。余裕が無くなると大きな声を出していることがある。大きな声になり過ぎないように心掛けた。
		2019年	41%	44%	15%			言葉遣い、声の大きさは常に意識するようにしている。声の高さに気を付ける。
		2020年	44%	50%		6%		つい声が大きくなってしまったりもあって、子供が安心して乗っけてくれるよう優しく話しやすいうい言葉遣いを心掛けている。声の大きさは場合によって使い分けしている。よく声が大きいと言われちゃう。
3	「ありがとう」「ごめんなさい」等生活に必要な言葉が自然に使えたり、心のかもった挨拶が交わせるような保育をしていますか。	2018年	79%	21%				言わそうとしないようにしている。自分から言おうと思えるように待つ。保育者が見本になるように心掛けている。大人の言葉をよく聞いていることを意識している。
		2019年	68%	29%	3%			感謝する気持ちは常に持つようにして大切にしている。
		2020年	72%	22%		6%		保育士が進んで挨拶、返事。どんな小さなことでも感謝の気持ちを持つ。朝の挨拶も恥ずかしくて言えない子がいるが自然と少しずつできている。職員間はどうだろう。自ら見本となり行っている。挨拶など全く教えていない。
4	保育者の言動の一つ一つを、子どもはモデルとして学び活動している事を知っていますか。	2018年	68%	32%				保育者の言葉がけ行動などを真似ていることを感じている。生活の中で子どもの見本となるように常に意識している。
		2019年	71%	24%	3%		3%	子どもはよく見ているので気を付ける。間違ったら謝る。
		2020年	67%	28%			6%	子どもだけでなく保護者にとっても子どもの関りはモデルということを意識していきたい。子の良いモデルになれるよう元気に挨拶、明るく優しく対応。
5	職員間で「報・連・相」ができていますか。	2018年	21%	63%	16%			けがやトラブルの際は各クラスの担任に報道相をしている。そ（伝える事）を細目にするようにしているつもりだが、もっと必要だと思う場面もある。
		2019年	15%	65%	15%	3%	3%	心がけてはいるができていないところもある。難しい。フリー時間でうまくいっていないメモを書くことを意識した。受け止め方の違いで「言った」「聞かない」「できていない」こともあった。
		2020年	28%	56%	11%	6%		もっと話し合う時間を設けなければと思うが難しい。人数が多く難しい。改善点有。伝え合っている。先輩職員の素晴らしいお手本を見て学びました。ほかの職員と共有することを心掛けた。つもりでは伝わらない。担任とはできている。ミーティングだけでも不足有。
6	交通安全の習慣が子どもの身につくような保育に心掛けていますか。	2018年	58%	37%	5%			普段の散歩等でも伝えているが、交通安全教室など専門家を呼んで行事としても行っている。
		2019年	56%	38%	6%			散歩に行ったときなど、声に出し確認することを心掛けている。道路に出る時にこえだして知らせる。
		2020年	50%	44%		6%		安全確認をH所頭射が声を出して行う。散歩中休憩しながら横断歩道の渡り方など子どもと確認。紙芝居を見てからの話し合いや散歩の際の声掛け。道路の渡り方を教えていない。
7	災害が起きた時や不審者が侵入した時、自分は何の様に対応するか分かっていますか。	2018年	32%	68%				訓練で役割は理解しているが、予想外の対応に不安はある。毎月の訓練でシミュレーションしている。子どもの安全を第一に考えている。
		2019年	38%	50%	12%			
		2020年	22%	78%				今年度から勤務時間が変わり学がことがまだある。シミュレーションしている。避難後の教職員・救護マニュアルや救急セットの見直しが必要。訓練で自分の役割は理解しているが不安。いろいろな想定のもっと参加したい。(朝夕担当職員)
8	保育計画が適切であったか振り返りを行い、改善していますか。	2018年	37%	58%	5%			月カリキュラム、日誌の自己評価等。保育の柱も各クラスが関わり、確認した。振り返り、反省をその後のやり方の改善をしていく。また、担任間での話し合いを行う。
		2019年	32%	47%	3%	3%	15%	振り返りながら改善できるように話し合ったりしている。
		2020年	33%	61%	6%			クラス会。自己評価。自分の保育の振り返り。相談・課題を見つけている。
9	新採用職員・後輩に配慮し、温かい人間関係を作るようにしていますか。	2018年	53%	47%				何でも聞いてもらえるようにゆとりを持つようにしている。挨拶をしたり、子どものことなど話している。なるべく自分から話すようにしている。
		2019年	50%	56%	3%		6%	不安にならないよう楽しくことができるようにコミュニケーションはとるようにしている。一緒に活動内容を計画している。質問に丁寧に答えていきたい。
		2020年	39%	44%	0%		11%	OJTとして一人一人の職員に担当としてつきわからないことを伝えた。人によるが教育が適切に行われていない。新人後輩だけでなく、わからないことがあると聞いている。優しい。
10	個人情報の管理を適切に行い、伝達や相談の際、人に聞かれないよう配慮していますか。	2018年	53%	47%				
		2019年	53%	56%	0%			引継ノート等見られないようにしないといけな。空いている部屋を探し話している。机の上に置いているのが気になる。
		2020年	44%	56%				面談室を利用。ノートやシール長など箱に入れ管理している。どこで伝えるか、もっと配慮できると思う。
11	「保育所児童保育要録」を学校生活に役立つように記載することをしていますか。	2018年	53%	37%	10%			経験がない為、詳しくはわからない。
		2019年	56%	32%	3%	3%	6%	
		2020年	50%	44%	6%			研修に行った職員がみんなに伝えている。

# チェックシート

\* 職員2

	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	子どもが自然現象の不思議さに気付けるようにし、一緒に調べたり身近な動植物の世話をする中で、生命の尊さに気付くようにしていますか。	2018年	37%	53%	10%			リボンにみんなで名前を付け、飼育している。季節に合った生き物(リボン、鈴虫、カブトシ、青虫、蚕等)を世話した。絵本や図鑑などで一緒に調べる。
		2019年	30%	56%	6%			緑々の幼虫から成虫まで子どもたちと世話することができた。
		2020年	44%	39%	17%			めだかの大きくなる様子やえさやりなど目の前でやってみせるようにした。理解できなくても伝えていく。庭で見つけたあおむしが大きくなったら何になるか一緒に考えたりした。
2	人権に十分配慮すると共に文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮していますか。	2018年	37%	53%	1%			
		2019年	36%	53%	3%		6%	
		2020年	44%	44%	6%		6%	ノートや保育写真の活用。
3	地域と良好な関係を築けるよう挨拶をしたり、行事に誘ったりして、地域の保護者が気軽に保育園を利用できるようにしていますか。	2018年	42%	58%				散歩先では自分から挨拶する。交流保育、行事へのお誘いポスター掲示、おひさまの活動、町内会。
		2019年	50%	41%	3%	3%	3%	こちらから積極的に挨拶するよう心掛けている。国内で出会った隠声をかけるようにしている。
		2020年	44%	56%				散歩時挨拶し園庭に誘っている。園庭開放の時声掛けをしている。コロナで行動を控えた。
4	保育者自身が積極的に子どもと関わり遊んでいますか。	2018年	63%	37%				子どもの楽しいを共有しようと思っている。
		2019年	71%	26%			3%	保育者が楽しむ事が大事だと思い関わっている。乳児期は遊びを養える時期なので関わりを意図して楽しめるようにしている。乳児は遊びが広がるようゆとり丁寧に対応。
		2020年	56%	33%	6%		6%	ひとりひとりどのような遊びに興味を持っているのか日々関わりながら遊ぶ。積極的に声掛けをし子どもが面白がることを見つけて沢山会話をしながら楽しんで遊んでいる。
5	乳児を寝かせる場合には安全に配慮し、呼吸と体位のチェックを行い記録していますか。又事故予防に努めた保育を行っていますか。(おんぶ・抱っこ・ベビーカー・シャワー・オムツ交換時等)	2018年	63%	37%				毎日呼吸チェック表に記入。
		2019年	82%	9%			9%	毎日行っている。
		2020年	50%	6%		6%	6%	2歳からは記録はしていないが顔色や呼吸はチェックしている。
6	子どもの病気やアレルギーについて、確認・対応を行っていますか。	2018年	63%	37%				アレルギー面談、複数での献立や配膳のチェック。定期的に確認できる体制を取らないといけない。様々な病気の知識をもっと深めていきたい。
		2019年	68%	29%			3%	個々のテーブルを設けたり、声出し除去など確認している。対応について確認し周知する。
		2020年	67%	33%				献立チェック、アレルギー専用テーブル、除去札を使用し保育者間で声を掛け合い提供している。保護者には除去の付箋を連絡帳に貼り付け対応している。保護者と園の対応確認を行っている。面談、職員間で確認している。定期通院の経過を聞くようにしている。ミーティングで毎朝全クラスの除去確認をしている。感染症はチャート表で登園日を確認できるようにしている。会議で確認。

# チェックシート

## \* 保護者支援

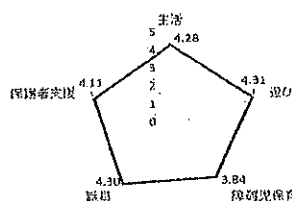
	評価基準	記入年	評価項目ごとの評価結果					具体的な取り組み及び考察
			a	b	c	d	未記入	
1	「保護者の子育てを支援する」という役割を意識し、成長や子どもを育てる喜びが共有できるよう配慮していますか。	2018年	53%	47%				保護者に会えた時は今日の様子や、最近の様子を伝えている。連絡ノートや面談、お迎え等に成長したことを伝えている。
		2019年	53%	36%	6%		3%	
		2020年	67%	33%				成長がみられた時口頭で伝え喜びを共有している。連絡ノートを利用してきたことを伝え成長を楽しみ喜んでいる。
2	連絡帳等で日常の子どもの様子を伝え合ったり、必要に応じて個別に面談を行っていますか。	2018年	60%	32%				食事のアドバイスを個別で行う。連絡帳、面談で様子を伝えている。
		2019年	59%	24%	9%		9%	育ちを共有してその後面談につなげたい。保護者と直接会える機会が少ない分連絡ノートでのやり取りを大切にしている。
		2020年	67%	28%			5%	ノートだけでなく保育写真の活用。面談をお願いしたり、状況をうかがっている。
3	保護者からの相談内容などを、園長・主任等に相談したり記録し継続的な支援をしていますか。	2018年	47%	53%				日誌や経過記録に記入。
		2019年	50%	38%		3%	12%	場合によっては職員全員で共有できるようにしている。
		2020年	50%	50%				内容を記録している。
4	保護者からの要望に配慮したり、快く対応するよう努めていますか。	2018年	42%	58%				
		2019年	62%	32%	3%		3%	
		2020年	61%	39%				園長・主任に相談し園全体、クラス等で話し合いをして対応返答。本に対する要望を極力伺うように配慮。
5	保護者に参加してもらえるような行事については、事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。	2018年	58%	42%				ニュース(お便り)園だよりを発行している。掲示、保育参加への呼びかけ、お礼など直接声をかける。
		2019年	56%	32%	3%		9%	特に外国籍の方のは細かく伝えるようにしている。
		2020年	33%	61%	6%			逆に参加が難しい旨など説明している。改めて行事の意図を見直し考える機会になった。保護者参加の行事がほとんどなかった。自分自身が理解し行事に参加してもらえるよう伝えている。
6	園のしおりの内容や保育課程等を理解し保護者へ分かりやすく伝える事が出来ていますか。	2018年	26%	74%				保育過程は伝える機会が少ない。
		2019年	29%	56%	6%	3%	6%	特に外国籍の方のは細かく伝えるようにしている。
		2020年	11%	78%	11%			説明会、懇談会等直接話す機会が減ったため工夫必要。しおりがわかりやすくなった。しおりに添付資料として載せるべき事項載せていない。まずは職員。



## \*2018年度 総評\*

- ・毎日子供と触れ合う中で食事・排泄などの基本的支援の関わりは高い評価がでている。個性を大切にし、食事の際自分で食べられる量を決められるよう働きかけたり、苦手な物も1口は食せるよう配慮している。食事を楽しみにできるような季節に合わせた食材・行事食の提供をしている。子どもと育てた野菜を調理職員に料理してもらったり、自分たちで調理を楽しんでいる。オムツ交換の際は、優しく話しかける等1対1で関わり、発達を促す大切な時間だととらえて接している。
- ・睡眠時には保育者がいつもうたっているわらべうたをうたい途中で目覚めてもやさしく唄うことで安心して入眠している。
- ・散歩に出掛ける機会を多く持ち、木の実を拾ったり自然に触れたりし、四季の移り変わりを伝えるようにしている。
- ・子どもの感じる心を大切に、喧嘩も成長の過程ととらえ見守り、気持ちを受け止め相手の気持ちも知らせるようにしている。
- ・保育の主役は子どもであることが分かり、こどもが自分たちで気付けるような働きかけをしたりなんでも大人が決定するのではなくみんなて話し決めている。保護者には連絡ノートで様子を伝えたり、会えた時に(シフト勤務の難しさはあるが)直接話したり面談の機会を設け情報提供できるよう努力している。得た情報は職員間で報告し合うが引継ぎを忘れることもありさらに改善が必要。ものも読み返せるようにしてある。
- ・地域の方とは挨拶を交わしたり、支援事業には担当職員がいて園庭開放や交流を行っている。

## \*2019年度 総評\*



- ・総合的には全項目高評価であったが、遊び、職員に関する項目が特に高評価であった。保育指針改定後、全体的な保育の計画(保育過程)を見直し改善を行い、大事にしたい年齢ごとの保育を全職員で見直すことができた。「こんな保育をしたい！」と意思を出し合い共有したことで目指す方向性の確認ができた。更に遊びの約束が子ども主体になっているか職員全体で共有できているか見直し、改善に取り組んでいる。
- ・障がい児の保育に関する評価がやや低かった。日々記録し、月ごとに保育の計画等を行いクラス討議後、会議で報告、必要に応じて保育会議で討議している。就学までの長いスパンの計画を作る予定だが実現されておらず、評価に結びついたと考えられる。また、専門機関との連携を行っているが直接関わる職員以外は気づきにくいことが分かった。今後の予定や課題、保護者保護者支援についての話し合いや報告は今まで以上に、より明確な形で行うことが望ましいという課題が見えた。

## \*2020年度 総評\*

- ・生活・職員に対する項目が高評価で、4月から衛生面についてのマニュアル作りや対策に全職員で取組、実践したことが評価につながったと考えられる。反対に調理体験、異年齢保育、保護者への説明の項目は昨年より、大きく評価が落ち込んだ。コロナ禍の中でどのようにできるか、後半は2グループに分けて交流したり、調理体験も今まで以上に衛生面に気を付けながら行うようにしたが、自粛期間などもあり例年に比べて1年を通して考えた時機会が少なくなってしまう。また、説明会、懇談会等保護者と直接話す機会が減った。説明会は書面郵送のみで不十分だった。後期懇談会はzoom懇談会、2021年度新園児説明会は2部制にて行う等工夫した。
- ・去年より良くなっているが障がい児の項目、報・連・相の項目がやや低い評価だった。月1回各1時間のケース会議やクラス会議などで定期的に話し合う時間はあるが、話し合う時間や研修が足りていないと感じている。外部研修ができない状況下でも、園内研修の実施などもっと工夫が必要であった。会議の内容の充実や業務の見直し、報連相の仕方などアンケートや保育ウェブなどで共有し、クラスノートの改善や1日を通じた(朝・夕)担任保育士も参加のクラス会議を行った。足りていないと感じている外部研修ができない状況下でも、園内研修の実施などもっと工夫が必要であった。会議の内容の充実や業務の見直し、報連相の仕方などアンケートや保育ウェブなどで共有し、クラスノートの改善や1日を通じた(朝・夕)担任保育士も参加のクラス会議を行った。